

第1回 高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議
議事要旨

I 開催日時：平成30年5月8日（火） 13:00～15:00

II 開催会場：高知会館3F 平安

III 出席状況

（敬称略・順不同）

区分	団体名	出席者名		備考
空港関係	大阪航空局高知空港事務所	空港長	林 絹子	
	四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所	所長	高阪 雄一	
	高知空港ビル株式会社	代表取締役社長	十河 清	
	一般財団法人空港環境整備協会高知事務所	所長	内田 裕人	
CIQ関係	神戸税関高知税関支署	署長	渡部 幸雄	
	高松入国管理局高知出張所	所長	富士原 賢一	
	広島検疫所高知出張所	所長	福井 昇	
	動物検疫所神戸支所四国出張所	所長	籠島 恵介	欠席
	神戸植物防疫所坂出支所高知出張所	所長	土手 二巳一	
航空会社	全日本空輸株式会社 高知支店	支店長	後藤 昌弘	
	日本航空株式会社 高知支店	支店長	磯村 康志	
	株式会社フジドリームエアラインズ 高知空港支店	支店長	秋山 正之	
二次交通関係	一般社団法人高知県バス協会	会長	片岡 万知雄	
経済関係	高知県商工会議所連合会	専務理事	杉本 雅敏	
学識経験者	慶應義塾大学	教授	加藤 一誠	
自治体等	南国市	副市長	村田 功	代理出席
	高知県市長会	会長	岡崎 誠也	欠席
	高知県町村会	会長	池田 洋光	欠席
	高知県	副知事	岩城 孝章	

IV 次第

- 1 開 会
- 2 検討会議の設立について
- 3 議 事
 - (1) 検討の進め方・全体のスケジュール
 - (2) 高知龍馬空港の現状や空港を取り巻く事業環境
 - (3) 空港施設の現状
- 4 閉 会

V 座長の指名

設置要綱第4条第2項に基づき、加藤委員が座長に指名された。

VI 主な意見

(1) 検討の進め方・全体のスケジュール

特になし

(2) 高知龍馬空港の現状や空港を取り巻く事業環境

<航空会社>

- ・一部の路線では予約が取りにくい状況もあり、利用者に迷惑をかけている。
- ・運航する機材については、本社が全国の状況を見ながらのやりくりの中で決定するため、需要を維持・創出することにより、より大型の機材を確保できるように努力する必要がある。
- ・FSCでは全国的には機材が小型化している傾向にある。
- ・一方、高知発着の路線の中には、座席数に余裕のある路線や、行政の支援を受けながら運航している路線もある。

<経済界>

- ・急な出張の際に、満席で便の予約が取れないことがある。
- ・名古屋路線は増便され利用しやすくなった。
- ・飛行機の欠航は、宿泊の予約者からキャンセル料を徴収できないため、観光や旅館業にとっては大きな痛手となる。

(3) 空港施設の現状

<CIQ>

- ・チャーター便運航についての、速やかな情報提供をお願いしたい。
- ・近年は、高知新港のクルーズ船が増えており、港湾関係者との情報共有はできているが、航空はできていない。
- ・対応する職員は、県外の各支所等からの応援で対応している。休日に国際チャーター便が運航される場合もあるので、要員や機材の手配の面からも早めに情報が欲しい。

<グランドハンドリング関係者>

- ・人手不足が顕在化している。また、離職率が高いのも課題となっている。
- ・チャーター便は事前の準備が必要であり、当日はスタッフの時間外勤務等で対応している。
- ・資料では「1日1便が限度」とあるが、実務的には「1週間に1便が限度」ではないかと考えている。

<航空会社>

- ・ 定期便との兼ね合いから、スポットの受け入れ可能な時間帯が限られている。
- ・ 実際の国際チャーターの受け入れ可能時間帯は、ターンテーブルの稼働状況を考えると、12:00～14:30である。
- ・ プログラムチャーターの実現には、ハンドリング体制（スタッフの確保）が課題である。航空会社としては他空港からの応援を要請することも考えている。
- ・ 国際チャーター便の運航には、施設面の課題も多い。善意の旅客ばかりではないので、しっかりと検査ができる施設・設備が必要。
- ・ 海外のような簡便な施設でも課題が解決される可能性があるがあるので、研究してはどうか。
- ・ 国際チャーター便運航時には、案内役として通訳を配置すべきではないか。

<空港関係者>

- ・ 施設整備が伴う場合は、「なぜそれが必要なのか」、「どのような客層をターゲットとしているのか」、「どの程度の規模が必要なのか」などの計画が必要。
- ・ グランドハンドリングスタッフの課題を解決するための具体的な方策について、検討すべき。
- ・ 航空貨物の掘り起こしなど、物流についても検討してはどうか。現在、国土交通省では小型機用の保冷コンテナを開発している。県の農水産品輸出拡大に向けた戦略と連携し、空港におけるコールドチェーンの構築を検討してはどうか。
- ・ 0番、1番スポットの活用を検討してはどうか。また、LCCがターミナルのデザインに参画した事例もあるため、航空会社も当初から巻き込んで上物施設の整備を検討してはどうか。
- ・ 今後は、これまで想定していなかったLCCや国際線の対応が求められる。空港ビルでは、国際チャーター便は臨時的な対応しかできないため、利用者に迷惑をかけている。新たなスポットでの対応など、施設の整備も検討すべき。
- ・ 0番、1番スポットをどうやって有効に活用するか、事業の採算性はどうか、効果はどうか等、具体的な検討をしていかなければならない。
- ・ 高知龍馬空港からの二次交通が未整備であるため、その対応をどうするかなど、空港全体のグランドデザインを考えたいうえで、優先順位づけを行うなど、アクションプランの検討を進めるべき。

以上